

録からICTを活用した場面と思考場面を抽出してみたところ、多くの活動で重なり合っていることがわかったからです。

二年目はこの成果を生かし、「文字」「漢字」「書写」の三つの領域を「文字の原理」領域として一つに集約することになりました。これにより、文字（漢字）学習と書写の「類似している指導事項」に光を当てることができ、これまで以上に多くの場面面で、効果的で効果的な学習を考えていくことができそう、との期待が膨らみました。

二年目 文字の原理 領域の実践

■机上の見直し

書写でも端末を活用したい。しかし用具を広げてしまうと、どうしても机上が窮屈。特に、毛筆学習では手狭となるし、墨汁や水書きの水分の、電子機器への影響も気になる……八方探し、児童機の奥行きを大きくできる「天板拡張くん」なるものを発見、導入してみました。これまでは、空き教室の児童用いすを運び込んで机の隣に置き、その上に端末を載せていました。学習のたびに運ぶのは一苦労でしたが、拡張くんは子どもでも簡単に運搬、設置できることか



▲「天板拡張くん」を使って机上を使いやすく

ら好評を博しました。

拡張幅は10cmですが、そこに余裕をもって端末を置くことができることから、教科書やワークシートをゆったり広げることができたり、腕を動かせる範囲や視界が広くなったたりするなど、端末操作のしやすさだけでなく、筆記具の持ち方や正しい姿勢の保持にも効果が波及し、とても有効でした。

■ICTで思考を促す「ふたつ」に「たわって」

端末を使い始める一年生は、とかく操作に熱中しがちで、教師からの指示が通らなくなる場合があります。また、学習活動での「書く」場面で、端末の使用が過多になると、文字を「打つ」ことには慣れるものの、手で「書く」ことには疎くなるおそれもあります。効果的な活用を目ざしている

聴できる場を設定する。確認や改善が何度でもできるようにしておく。）

⑤成果を共有する。

★実物投影機などにより実物を示しながら、言語で共有する。

・自分自身で気づけなかった「よりよく書くコツ」に気づく機会を保障した。

⑥毛筆の学習を生かして、硬筆で「白馬」を書く。「白馬」以外の熟語を選んで書く。

・獲得した原理・原則を他の文字に活用することで、日常に生かす意欲になる。

文字の原理 特別支援学級

かたかな あつまれ

・一年の最後に、家族に「キラキラお手紙」を出そうと張り切っている。そのため、「キラキラ文字にしなければ」という意欲が高まっている。

①既習を想起する。

・かたかなの「形クイズ」
「パ」はよこなが
「シ」はましかく

②パズルクイズに挑戦

★スクールタクト（※2）で文字のパーツを組み合わせる。
・とめ、はね、はらいに気をつけた「キラ



中で、「端末を無理矢理使う」のではなく、学習の目標や身につけさせたい力を明確にして使用場面を整理しました。

書写の学習過程においては、文字を観察したり、文字を書くためのきまりや規則性を見つけ出したりする活動が組まれますが、それはまさに「思考」を促す活動です。ここにICTの良さを加えて思考活動に刺激を与え、思考力の土台を作っていくことにこだわりました。

【学習の流れ】（★＝ICTの活用・思考場面）

文字の原理 こくこ二年下

かん字のはなし

①かんじクイズにチャレンジ
ろうそくの🔥をけす（例）

★QR動画「かん字ができるまで」を視聴。

★オクリンクで出題し合う。答えを返信し、○をつけてあげてまた返信。

★検索アプリで字源を調べながら、さらに出題。調べ方は指導が必要。

②「ねこかんぺきくん」を使って、筆順や気をつけて書くところを考える。

★「ねこかんぺきくん」を操作、活用して文字のきまりを発見する。

★電子黒板に子どもの操作例を提示し、友達の考え方をとらえる。（教室正面の大

キラ文字」が完成できるようにする。

③学んだことを生かし、ワークシートで練習する。

まとめ

「思考する文字の学習」は、ICTを効果的に使うことによって実現できそうなおことがわかりました。国語や書写で、むやみやたらに「端末を使う」のでは、手で文字を書く機会を奪うことになりかねません。これまでの指導がICTに取って代わるということではなく、これまでの指導にICTを＋αとして加える使い方をしていくべきだと思います。「分度器は角度を測るときに使う、コンパスは円を描く道具。では、ICTは？」——私たちはこの程度の発想から始めました。今後の書写や文字の学習では、端末等の活用場面の精査とともに、ICTを使って思考したことを「手で書く文字」に反映させていく誘いが必要になってきます。「タブレットの学びを手書き文字へ」といったところでしょうか。

今後も、端末に限らずさまざまなICT機器の特徴を最大限に活用して、楽しくてわくわくするような「これからの書写・文字の学習」を考えていきたいと思っています。

※2 株式会社コードタクトが提供する授業支援クラウドシステム。ブラウザ上で協働学習を行うことができる。